

## 平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	1-2-3		事業名	青少年科学館展示物整備事業			
担当	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課 藤崎						211-3871
全体計画							
事業内容	開館後25年以上が経過した青少年科学館について、老朽化した施設の修繕と、展示物の更新を計画的に実施する。青少年科学館の今後のあり方について、専門家や教育関係者、一般市民等の意見も聞きながら検討していく。			<年度別の事業内容>			
				平成19年度 力学系展示物の更新 平成20年度～平成21年度 科学館の今後のあり方を検討			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	力学系展示物の更新 39,900千円 【事業内容】 当該整備事業では、青少年科学館の開館当初に設置し、25年以上が経過していた展示物「力のサーカス」を廃止し、ボールのいろいろな動きが見られる「ニュートン・ガーデン」と様々な力学系の体験ができる「チャレンジ・ラボ」を整備した。この結果、子どもたちが運動とエネルギーを楽しく遊べる機会を提供できるようになったことに加え、科学教育の大幅な充実を図ることもでき、平成20年4月のリニューアル後は入館者の増加にもつながっている。 入館者数 平成19年4月 19,557人      平成20年4月 25,635人			青少年科学館の中長期的なあり方に関する検討を平成21年度にかけて実施する。(予算の計上はなし。)			
達成目標の状況							
項 目		18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (予 定)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
入場者数		292,854人	346,097人	352,000人	352,000人	352,000人	352,000人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 従来から実施している観覧者アンケートを、平成19年度は夏と冬の特別展実施期間を中心に実施し、観覧者のニーズや要望を施設の運営改善や事業の見直しに反映している。今後はこれまで蓄積した観覧者の意見を施設のあり方の見直しに活用していきたいと考えている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							

## 平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	1-2-3		事業名	青少年科学館展示物整備事業			
評価(成果)			課題				
<p>青少年科学館の展示物は、それぞれが特別に製作するものであるため、製作費用が高額となり、頻繁には更新できないが、平成19年度に力学系展示物のリニューアルを実施したことにより、観覧者の増加につながっており、施設の魅力アップに結びついている。</p>			<p>日々進歩する科学技術に関する知識の普及啓発を図るという施設の目的を実現するため、今後も可能な限り展示物の更新を行い、魅力的な施設づくりに努めていくとともに、観覧者の増加を図っていく必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>展示物の計画的な更新を行っていくことに加え、施設の効率的な運営や効果的な事業の実施などについて、専門家や教育関係者及び一般市民等から意見を聞きながら、青少年科学館の今後のあり方の検討を中心とした取組を行っていく予定である。</p>							
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	40,000	-	-	-	40,000	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	40,000				40,000
		一般財源	0				0
予算	事業費	40,000	0	-	-	40,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	0			0
		市債	0	0			0
		その他	40,000	0			40,000
		一般財源	0	0			0
実績	事業費	39,900	-	-	-	39,900	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	39,900				39,900
		一般財源	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				99.8%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							